



№18 2012・6・15
連絡先 〒 334-0001
鳩ヶ谷市桜町 6-13-16
森 克彦 048-283-3183
清水 こう 080-3157-3885
白鳥 由一 03-5606-3715

ハイウェイ九条の会ホームページ <http://www006.upp.so-net.ne.jp/jh7600/>

「第二回 ハイウェイ九条の会 関西の集い」開催される 兵庫県在住 山本 佳顕

一昨年来となる「第二回 ハイウェイ九条の会関西の集い」が5月5日に京都国際交流会館で開催されました。当日は快晴の休日（子供の日）ということもあり、参加者の出足が心配されましたが15名の参加者があり盛況となりました。



寺内氏の講演を聞く参加者

九条の会の活動が改憲の賛否に連動する

吉岡喜作氏の司会で、山本の開会挨拶の後「憲法九条京都の会」事務局次長の寺内寿（ひさし）氏の講演が行われました。

寺内氏からは、国会において憲法改正の環境整備がすすめられ、橋下大阪市長などの東日本大震災の復興をも憲法改正の梃子としようとする動きがある中、震災からの復興を憲法に定められた「生存権を守る」という視点でとらえる重要性が強調されました。また、九条の会の活動水準が世論調査に見る改憲の賛否に連動しており、今後さらに九条の会の活動を発展させていく必要性が訴えられました。

この後、参加者と寺内氏との意見交換があり5名

の参加者の方々から熱心な発言がありました。この中で、現状の停滞した「決められない」政治状況への閉塞感から、橋下大阪市長への期待感が雰囲気としてあり、それにどう対応していくべきかとの切実な意見もありました。

予定時間が迫る中、西村正弘氏から「九条の会の説明」、伊藤静雄氏から「今後の活動への呼びかけ」が行われ、予定の2時間半はあっという間に過ぎました。

又、参加者から31,500円ものカンパが寄せられ、呼びかけ人一同「開催して良かった！」と意を強くしたところです。

蛇足

五月五日、こどもの日。国内の五十基、全ての原発が止まった。政府はストレステストや「再稼働基準」を設け、大飯原発では住民説明会を開催するなど、再稼働に躍起である。▼安全対策はどうか。福島第一原発への地震の影響は未解明で、次へ生かす術もない。最近、多くの原発で過去の巨大地震の痕跡や活断層の存在が指摘されているが、対策は皆無である。また、原発災害時の重点地域の避難計画は何処もできていない。使用済み核燃料は最終処理場がなく、原発内に溜まったまま。さらに、原発に対する独立した規制機関も設置されていない。どのような理由を並べても、こんな状態で再稼働するなんてとんでもない。▼福島第一原発の事故説明だけでも何年かかるか分からない。原発は未完成の技術であり、このまま再稼働し、もう一度事故を起したら日本は本当に再起出来なくなるだろう。▼今こそ原発からの撤退を決意し、代替エネルギーに本腰を入れてゆく必要がある。原発からの撤退を決めたドイツは、多様な発電システムの導入と、電気の売買の自由化で、化石燃料の輸入が減り、逆に経済が活性化したとNHK「クロースアップ現代」で報道していた。

「維新の会」の憲法改正

論議に注目

横浜市在住 織方 弘道

未だに大地震、巨大津波、原発事故のことが頭から離れません。むしろ新事実が次々に明らかになり、対応の稚拙さを見せつけられて、腹立たしいことが多くなるばかりです。

一般国民の中にも、自分の利己的な意見を正義であるように主張する方があり、選挙のことを最優先に考える国会議員、地方自治体の首長さんが多いのも困ったことです。

昨年の夏には、京都の大文字焼きに岩手の薪は使えないとか、福島産の花火はダメだということなどが沢山ありました。

最近の瓦礫の焼却拒否もエゴイズムの最たるものに見えるてなりません。今にして思えば、いち早く被災地に仮設の瓦礫分類場を設置して、木材はチップ化、ペレット化して発電用などのエネルギーとして活用するのが賢明ではなかったかと考えています。

最近の国会のように、与野党ともに煮え切らない議論が続いている時には、大阪維新の会の橋下氏のような威勢の良い発言が新鮮に聞こえて来て人氣が沸騰して来るのも困った傾向です。

「自民党をぶっ潰しても・・・」と叫んだ小泉純一郎に国民の圧倒的な支持が集まったのは、ついこの間のことでした。

民主党の躍進も、自民党よりはマシだろうと感じた有権者が殺到したことが大きな要因だったことも明白です。

次の出番が橋下維新の会になりそうです。問題は、彼が憲法改正にも極めて熱心なことです。首相公選制、参議院廃止が対象だった頃は聞き流していましたが、最近では憲法9条を目の敵にしているのには驚きました。彼の2月24日のツイッターにこう書いているのです

『世界では自らの命を落としてでも難題に立ち向かわなければならない事態が多数ある。しかし、日本では、震災直後にあれだけ「頑張ろう日本」「頑張ろう東北」「絆」と叫ばれていたのに、がれき処理になったら一斉に拒絶。全ては憲法9条が原因だと思っています。』

毎日・岩見隆夫氏の解説によれば「戦力不保持をうたい、米国に依存する他力本願の利己的国民性が、瓦礫処理にも及んでいる」という趣旨らしいのですが、こうなると困ったことを通り越して極めて危険です。維新の会の憲法論議に注目しましょう。



「維新の会」とテレビ

北海道在住 宮内紀也

橋下徹大阪市長率いる「維新の会」がテレビに取り上げられ、支持を広げようとしている。テレビはニュースやバラエティー番組でその動向を無批判に、頻繁に登場させており、かつての小泉純一郎首相の郵政選挙に象徴される劇場型政治を再現させようとしているように私には見える。

小泉劇場がもたらした結果は、雇用の非正規化、格差の拡大、社会的弱者の孤立化、地域的産業基盤の崩壊、自衛隊の海外派兵の常態化・・・、であったのではないかな。

先般テレビを見ていたら、大阪府立高校で卒業式の君が代斉唱の際、校長や教頭らが約六十人の教職員の口元を監視した結果、3人の教員の口が動いていなかったと発表した、と報じ、橋下市長の「ルールを守らせるということは、こういうことですよ」と絶賛するコメントを流していた。

翌日、北海道新聞の「卓上四季」欄が「君が代が流れる間、目を皿のようにして他人の口の動きを観察している、巢立ち行く生徒一人ひとりの表情に暖かく目を向ける暇などなかったろう」とその異常さを指摘していた。

橋下市長は、この2月にも市職員3万数千人に対し業務命令という公権力で「思想調査」を実施した。その中身は組合活動への参加、特定政治家への応援や街頭演説参加の有無、誘った職員以外の名前まで記載させる内容であったという。これは市職員だけでなく、市職員に市民の思想調査を迫るものである。

あの戦争の反省の上になって定められた憲法十九条の「思想信条の自由」が侵されていることにもっとも敏感であるべきメディアが沈黙している。

維新の会の維新八策を見ても問題が多い。九条改悪へ向けて要件を衆・参国会議員三分の二から二分の一としている。ファシズムをもじって橋下ズムと言われる強権体質について、その危険性を指摘するテレビはみない。

経験を書き残しておこう

千葉県在住 持永 龍一郎

今から20年ばかり前、パリ近郊の地方道路局を訪問した。担当者から、道路技術の目的は玉ねぎの皮のようなもので、時間とともに、次から次へと新しい課題が現れてくるという話をされた。最初は「安全」という項目が目的として挙げられた。次いで「サービス」という概念が重要な項目となり、そして現在は「環境」という課題が現代においては重要となっているという話であった。我々は道路の建設に全力を払って品質の管理に努めてきた。しかし、この話を聞いて、建設技術の目的は「安全」であり、品質の管理はそのための手段であるということであるということを改めて認識させられた。

道路の有料化の是非が問題となっている現在、多方面からいろいろな提案がなされている。これらは、手段についての提案であり、そのためには、道路の目的は何かを認識し、価値判断の基準を明確にしておくことが重要である。社会資本とは国民全体の共有の財産であり、あくまでも、国民全体の豊かさへ貢献することを目的とするものである。

時代とともに変遷を繰り返し、将来の予測は難しい。今までは、科学的手法によって、いろいろな将来予測が行われてきたが、現在、なかなか予測は難しいということが認識されるようになった。科学は連続性を前提としている。現在は条件が複雑になるとカオスという現象が生じ、自然の動きは複雑で、予測は難しいということが認識されるようになった。

しかしながら、いろいろな動きはまた原因があって結果が生ずるのである。科学書の中で「天には神が居る」という表現もある。自然現象は複雑であるが、何らかの原因によって同じ結果となる。そのために、判断の材料となるいろいろな現象を記録しておくことが必要である。目的と手段をはっきり区別して認識することが重要である。近頃の政治の混乱は何ゆえか。政治家の目的は何か。手段にこだわり過ぎていないか。

知は、刻一刻と古くなり、陳腐化し、誤謬だらけとなる宿命を負っている。知は時間とともに劣化する。その結果、知の生産過程は、放っておくと、必ず縮小再生産過程に入ってしまう。過去にどのような成功をもたらしたかという記録は重要であるが、又どのような失敗を起こしたことがあるのか、過去はどのような幼稚な手段から出発したのか、経験を書き残しておくとは重要な我々先駆者の義務でもあろう。



えっ！ コレ 民主国家？

神奈川県在住 島 博保

「東日本大震災」および「福島第一原発事故」の犠牲者と被災者の方々に、心よりお悔やみとお見舞いを申し上げます。

とりわけ原発事故は「我々の国 ニッポン」いや「われわれ自身」の致命的な欠陥を露わにする。原発のリスクに対応もできない「われわれ」が持つてはいけない「刃物」、それが「原発」であると立証した。お粗末なことに、リスク対処の効果的な組織をつくらず、実践的な準備も訓練もしてなかった。「気狂いに刃物」とは、まさに我々のことだった。

この事実は、全世界に「とんでもない 劣等国 ニッポン」と知らしめた。このような「文化的な欠陥」を持つ我々、その象徴が「憲法9条と自衛隊の併存」にも表れている。今回、「第二の敗戦」と言った識者がいた。戦争の犠牲者310万人、沖縄をはじめ主要都市の焦土化、・・・「太平洋戦争でアメリカに完敗」から、我々は何を学んできたのか？？

広島・長崎に続き、第五福竜丸・スリーマイル・チェルノブイリ・東海・福島とは！！

NHKをはじめ 大手メディアは、東電・保安院・官邸の発言をそのまま伝える「原発推進者らの広報機関」に過ぎなかった。また、寄付金という賄賂で買収され、東電など電力会社と癒着していた。全く信頼できないメディアや隠ぺい体質の統治機構、このデタラメを許してきた「我々」、公器に値する「メディアが存在しない日本」とは、困ったものだ。

記名記事による情報を大切にし、感銘を受けた主な書籍やサイトを紹介しておきます。

☆ 西條剛央 人を助けるすごい仕組み ボランティア経験のない僕が、日本最大級の支援組織をどうつくったのか ダイアモンド社 2012. 2. 16

☆ 塩崎恭久 「国会原発事故調査委員会」 立法院からの挑戦状 東京プレスクラブ 2011. 12. 25

☆ 上杉 隆 国家の恥一億総洗脳化の真実 ビジネス社 2011. 12. 3

☆ 児玉龍彦 内部被爆の真実 私は国に満身の怒りを表明します 幻冬舎 2011. 9. 10

☆ 山岡淳一郎 原発と権力 戦後から辿る支配者の系譜 筑摩書房 2011. 9. 10

サイト：ダイアモンド・オンライン、「大前研一 ニュースの視点」、JMM (Japan Mail Media)、ごまめの歯ざしり、プレジデントオンライン編集部

「日本人の誇り (藤原正彦著)」

から

東京都在住 山本昌洋

昨年の尖閣諸島沖の中国漁船衝突事件の日本政府のぶざまな対応には情けない思いをしました。いまだに日本が戦争の罪悪感を引きずり小さくなっている証拠であります。

日本は世界7大文明の一つに挙げられる誇るべき日本文明を生み、和の精神を中心に置く素晴らしいアイデンティティを育んだ国である、日本国民よ、自信を持ってと表題本の著者は訴えます。そして、今の日本人が誇りを失った理由と、祖国への誇りを取り戻す道筋を本書は次のように述べています。

誇りを取り戻す道筋の第一は **{(罪意識扶植計画) で 植え付けられた罪悪感を払拭すること}** とあります。

戦勝国の復讐劇にすぎなかった東京裁判の断固たる否定であります。

終戦後にアメリカが日本国民に対して実行した罪意識扶植計画 (ウォー・ギルト・インフォメーション・プログラム) すなわち、(戦争についての罪の意識を日本人に植え付ける計画) の戦略は、メディアの激しい言論統制と、新聞、ラジオを介したGHQ提供の政治宣伝文 (太平洋戦争史、真相はこうだ、等) の強制発信でした。

真実を隠蔽し、日本の歴史を否定する事で日本人の魂の空洞化と弱体化を狙ったものでした。言論統制に関しては、昭和20年の秋に占領軍が日本に進駐してから27年に出て行くまで、秘かに雑誌や新聞、ラジオといったあらゆるメディアを検閲していたのです。禁止事項は30カ条にわたり、原爆の責任について触れてはいけない、東京裁判の正当性に言及してはいけない、アメリカや連合国を批判してはいけない、GHQの日本国新憲法起草を批判してはいけない、戦前を賛美してはいけない、日本が遂行した戦争の擁護、神国日本の宣伝をしてはいけない等、こまごまと決められていたのです。

検閲に引っ掛かると新聞などは発刊停止になりました。日本人の本音を探るために膨大な量の私信ですら開封検閲されていたのです。ポツダム宣言でも保障された言論の自由を、自由の旗手を自認するアメリカが封殺すると云う悪逆非道を働いたのです。日本のメディアは検閲の秘匿を強制されていましたから一般の日本国民はこれらの事実を誰も知りませんでした。

それで日本人は完全に洗脳され、原爆は仕方なかった、東京裁判は正当、何もかも日本が悪かったと思いこまれたのです。アメリカが引き揚げた後は日教組がこの路線を受け継ぎ、祖国に誇りを持たない日本国民を大量に

輩出して現在に至っているのです。私たちは作爲的になされた歴史の欺瞞を正し、歴史の断絶を回復しなければなりません。黒船来航から敗戦後の占領にいたる百年戦争が、欧米諸国の植民地主義や人種差別に対して日本が独立自尊の精神を貫いてきた歴史であった事を改めて思い起こさなければなりません。

第2は **{アメリカに押しつけられた日本弱体化のための憲法を廃棄し、日本人の、日本人による日本人の為の憲法を作り上げること}** だと云います。現憲法は「前文」において「平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼してわれわれの安全と生存を保持しようと決意し」国家の生存が他国にゆだねられているから独立国ではないと云うのです。

第3は **{自らの国を自らの力で守る決意をして実行する事です}** とあります。他国に守ってもらうと云う屈辱的な属国の状況では誇りを持てるはずがありません。尖閣諸島沖衝突事件の時に日本政府がアメリカに、もしもの時には守ってもらえるかを打診しています。あの中国に対する日本政府のぶざまな対応はアメリカの裏側の意向と無縁とは思えません。

日本は近代で侵略戦争を連続して行った罪深い国で、しかも現状は国家の生存が他国にゆだねられている独立国とはいえないがたい国であり、自国の防衛すら他国に依存せざるをえないアメリカの属国のような状態では、祖国に誇りを持つことなど無理というものでしょう。

日本が世界の平和に貢献するためにも祖国への誇りを取り戻さなくてはなりません。アメリカの横暴やロシアの不誠実を諷め、中国の野卑を戒め、口角泡を飛ばし理屈ばかりいう米中に「論理はほとんど常に自己正当化にすぎないものですよ」と論ず事が出来るのも、誇りある祖国と云う支えがあつての事でしょう。

今回の東日本大震災でも、このような混乱時にどこの国でも起こる略奪が極めて少なく秩序が保たれていた事を世界中から称賛されました。江戸期までに日本人が作り上げてきた素晴らしいアイデンティティが生き残っていたのです。

私は戦中世代で祖国に強い誇りを持って育ちました。しかし、中学1年生の8月15日を境に、祖国への価値観を180度変えさせられた残り少ない日本人の一人です。

戦後や平成世代の人たちが、アングロサクソンのフィクションで固められた東京裁判史観や罪意識扶植計画の呪縛から脱却し、祖国への誇りを取り戻してもらいたいと切に願うものです。東日本大震災における日本人の行動は、それがまだ間に合う事を証明してくれました。表題本の一読をお勧めします。

一枚のハガキ

(1945 年 7 月 25 日付)

上田裕子 (商社九条の会)



91歳の老母（マリ）が押し入れの中を片付けているうちに一枚の古いハガキを見つけ、私が保管した方がよいと持ってきました。宛名には当時2歳4カ月の私（裕子）の名前が書かれています。差出人は祖母の大澤あきです。

だいぶ黄ばんでいますが、ブルーブラックのインクで書かれていたことが分かり文字も読めます。「コノ郵便物ハ先ノ事由ニ依リ持戻候」という付箋が付いていて（事由の項目に印はない）余白には手書きで「栃木県足利市通5丁目3437大澤あき様へ回送ください」と書かれています。それが下のハガキです。敗戦の20日前に満州に住む小さな孫宛に書いて投函したものです。

母（マリ）の娘時代、祖父母は足利市で幼稚園をやっていたのですが、戦局が厳しくなっただけで祖父の実家に疎開していませんでした。祖母は牧師の娘として育ちオルガンは弾けましたが、農作業の経験は全くなく、おそらく農家の長男の嫁として初めての実家での生活に戸惑い、農作業のきつさに耐えていた頃だと思います。

ひとり娘マリ（私の母）は結婚して満州へ、ひとり息子は徴兵され中国南部（南支）で生死不明という状況でした。広い庭の片隅にある井戸から水を汲ん

で風呂場に運ぶ仕事はきつかったのでしょう。

祖母はこのハガキをどこで書いたのだろうかと思っています。薄暗い台所の片隅だったのかもしれませんが。

文字を判読できないのですが、このハガキにはスタンプが2個押されています。ということは敗戦の年の7月末から8月にかけて日本海を往復したのでしょうか？あるいはもう7月末ですから満州への郵便は不可能で戻されたのでしょうか？ずいぶん時間が経って戻ったことは確かです。

すでに疎開先には居なかったのですから。祖父母たちが敗戦後、足利市に戻ったのは9月半ばを過ぎてからです。ハガキが戻ってきたときに祖母は泣いたのでしょうか？娘も息子も消息不明のところへ、自ら投函したハガキが戻ってきたのですから。そんな不安な日々が長く続きました。

栄養失調で瀕死の私を連れて父母たちが足利市の祖父母のもとに辿り着いたのは、その1年後のことだったのです。

91歳の老母マリは戦後一貫して平和を求める運動にかかわってきました。89歳のときにはニューヨークへ仲間とともに出掛けて核廃絶のデモ行進にも加わりました。

裕子ちゃん、内地のバーちゃんですよ。
今、おばあちゃん、裕子のことばかり考へながら
お風呂の水を汲みました。
骨の折れる仕事をするとき、裕子のことや裕子のお父ちゃんやお母ちゃん、南支のおじちゃんのこと考へながらするのです。すると、あれ、もうおしまいだと思ふほど楽なのさ。
行けるようになればすぐ裕子ちゃんや！と満州へきますよ。
お父ちゃん、お母ちゃんの言ふこと、よくきくのね。



上田 収様方

上田 裕子 様

埼玉県比企郡菅谷村大蔵

七月二五日

大澤 あき

満州国新京特別市天宝街百二十三

農地開発公社社宅

地域の「平和のつどい」に 参加して

千葉県在住 磯部 隆

私が在住している佐倉市は、敗戦50周年にあたる平成7年「戦争より平和、憎しみより和解と共生、税金は軍事より福祉と教育へ」の平和行政を基本とした条例を定め、「日本国憲法の平和理念」を礎に、戦争でなく平和になることを考えるための活動を展開している。

昨年夏、活動のなかで最大イベントの「佐倉平和のつどい」に参加してみました。

会場のあちこちでは、広島平和記念館から借用した「原爆の絵」や原子爆弾「リトルボーイ（広島投下）」と「ファットマン（長崎投下）」の実物大模型などを展示、戦時食の試食もあり、戦争の愚かさ、悲しさを感じて貰おうとしていました。

ホールでは、子供達から若者、年配者まで幅広い多くの市民が合唱・吹奏楽・和太鼓・手話ダンスなど市民団体による東日本大震災被災者支援を兼ねた「平和コンサート」も同時開催。

この集いのテーマが「戦争への導きと非戦への導き」ということで、実行委員会が注目した戦争当時の政府広報誌「写真週報」を国立公文書館アジア歴史資料センターから多数借用して展示、閲覧できました。

『写真週報』は、中国への全面侵略を開始した翌年の昭和13年2月に創刊され、日本敗戦翌月の昭和20年7月まで、政府による大衆向け「国民啓発」の手段として発行したもので、その読者は200万人にも及んだという。

毎号の表紙には、鉢巻きを締め直す女性、一点を見つめる男子、戦争へ向かう人や兵器などが勇ましく描かれ、「一億、今ぞ敵は米兵だ!」「猛々しい日本男子の血をそそげ」「勝て勝て勝つんだ」などの言葉とともに国民の士気を鼓舞している。

この週報には、戦場の姿や軍政と日本政府の占領政策などの場面は掲載されておらず、国策総力戦として実行された戦争時代に人々の批判的精神を封殺し、時の政府と軍部の政策実行に必要な情報誌であり、人々を兵士として育成、戦場への導きの書として編集・発行されている事を分かり易く知ることができる。

実行委員会の資料には、「歴史を学ぶことが平和を維持し生み出す源となる」「歴史は繰り返すというが、主権者である市民が盲目とならなければ、同じ歴史を繰り返すことはない。」と結び、そのための題材は尽きず、もっともっと伝えたいという思いがふれていました。

このような、地域の活動によって、日本国憲法が掲げる理念のすばらしさへの理解が深まり、「平和の絆」が強まるのではないのでしょうか。

原発に依存しない社会を

東京都在住 柏木幸一

原発はその運転と維持管理及び廃棄物の処理についての技術が未だ研究段階であり、プルトニウムのような有害な放射性物質を大量に放出する。その後処理には数世代の時間を要するという。

このことは、スリーマイル島（79年）、チェルノブイリ（95年）、福島第一の事故例をみても分かるように、近隣住民、原発施設の従業員及び維持管理に従事する人々に被害を及ぼしていることは、我々の知るところである。

我々の仲間であるH氏は終の住処である福島で被災し、何度かの住み替えを続けている。

そもそも、軍事力として原爆の製造のために原子炉の開発がなされたが、第二次世界大戦、冷戦を終え、原爆の生産を抑え、原子炉の効率的利用を原発によって代替しようと意図したと考えられる。

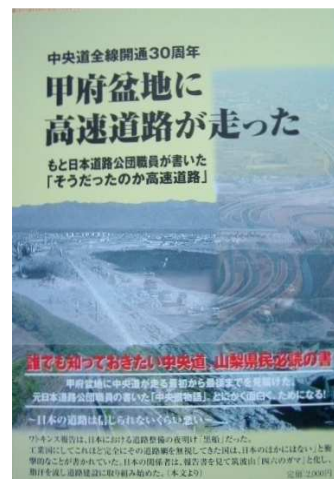
目下、日本においては50箇所の原発施設があるが、その内20箇所は30年の耐用年数を過ぎているという。しだいに原発依存度を低めて行くことが求められる。

この際、代替エネルギーはどうするかというと、天然ガスによるLNGコンバインドサイクル発電（以下LNGという）と地熱発電が最も手近であるという。無論、LNGにしる、地熱にしる隘路があるが、原発のもたらす危険性を考えると、やむを得ないと思う。

人間が制御できない物を作ったのだから、人間が対応を考えねばならぬではないか。

国民も企業も節電に努め、危機を乗り切ろう。

自己の利益のために、原発の受け入れを企画し実施した者たちと、原発産業の技術の輸出を企画した者たちにかぎりない怒りを込めて。



左写真の本が出ました
小沼俊彦著

とにかく面白いと評判
です
グラビア、中央高速
道路の歌・楽譜付き
A5版、167ページ

頒価 2000円
申し込み 電話・FAX
055-276-7077

二つの懸念

埼玉県在住 橋本弘之

今の私は、近くに住む孫二人と遊ぶのが楽しみです。経済面については二つの懸念があります。

一つ目の懸念――国の借金の増大

一つは国の借金が増え続けており、一方、人口の減少は止らないという事実です。こんな多額の借金を子孫に返して貰うことは不可能であり、その内、日本経済が破綻すると心配しています。人口減少を止める方策は思い当たりませんが、国の借金を無くする、当面は借金を増やさない方策はあるはず。その良い例はテレビで紹介されたイタリアのやり方です。イタリアでは政治家でない人が首相になって緊縮財政政策を取り、赤字国債の発行をやめ、消費税を23%にしているとのこと。

政治家だと緊縮財政や増税をするのが難しいのなら民間人が行えば良いと思います。増税の方法として、消費税を上げるのは賛成できませんが、貧富の格差が広がらない税のかけ方は他にあると思います。

二つ目の懸念――ネクスコ三社の採算性確保

日本道路公団時代には、7600kmの高速道路の採算性がとれるかどうか心配していました。その上に第二東名神が加わったのです。この第二東名神は建設省が思いつき、日本道路公団に押し付けてきた物です。私はこのために何らかの財政支援措置がなされると思っていたのですが、何もなされませんでした。その上に道路公団でルートの変更もできなくなっていたのです。それは、施行命令前に環境アセスメントを終わらせる必要が生じたためです。これで地形急峻な山地部を地形に合わない雄大な線形のコスト高の高速道路を造ることになり、工事費は莫大な物になります。

難工事に取り組んでいるネクスコの職員には敬意を表しますが、その努力が採算面で報われるのは、ほんの僅かです。

ネクスコは一致して、この窮状を国に訴えるしか方法はないと思います。

娘一家と転居旅行

愛知県在住 金森 芳夫

バンコク・シェムリアップ・香港・広州

私が、昨年暮れから今までに旅行した外国の都市です。老後の観光旅行のようですが、実は娘一家の転居に伴う旅行です。

2人の娘が、バンコクと広州に滞在

【バンコク(タイ)】

2年ほど前に、転勤に伴う転居。何回も訪れていますが、洪水後は初めてです。洪水の痕跡は殆ん

ど無く、洪水前と変わっていないようです。

タイの人々は、家が水に浸かったことより、働く職場が無くなったことが大変だったようです。

チャオプラヤ川は、流域面積約16万km²(関東平野の約10倍)・下流部370kmの河床勾配が5万分の1という緩勾配河川。日本で大々的に洪水報道された工業団地は、以前は、水に浸かっても被害が出ない農地であったが、工業団地・住宅団地化され被害が生じ水害が生じた。川の流下能力に比して洪水量が多いこの地域は、どこかであふれる仕組みであったようです。遊水地に工業団地が果たして妥当であったか? 今回の洪水でも浸水しなかった団地が多かったことを考えると海外へ進出するときもっと慎重に調査すべきであると思った。

【シェムリアップ(カンボジア)】

バンコクから1時間ほどで行けるため暮れに訪れた。ビザが必要であるが、空港において手数料US\$20で発行してくれた。

世界遺産アンコールワット(800年頃～1430年頃まで栄えた・19世紀に再発見)と季節で湖水面積が大幅に変わる湖(トンレサップ湖)の見物が目的であった。湖は、雨期(面積1万6千km²)にメコン川から水が流れ込み、乾季(面積3千km²)に水をメコン川に流す機能を持っている。住民は雨期には、岸近くの船の上で水上生活し、乾季には、沖合20kmで水上生活をしている。

【香港】

広州へ行く中継地として寄った。超高層ビルが林立し、今なお、建設が盛んである。

入国審査―広州から帰国のため列車で香港(九龍)駅に到着、入国カードの記入ミスのために新しいカードに記入し直している途中、係員が来てパスポート番号と名前が正しければ、記入ミスがあっても入国審査所へ行けと言われ、そのまま記入ミスの書類を提出した。もちろん無事通過。

【広州(中国)】

香港から列車で広州東駅(広州の新しく開発された地区にある駅・ここで入国審査)へ

この(天河エリア)地区は20年ほど前から開発が始まった新しい都市。超高層ビルが林立。

70階建ての中信広場には日系企業が多く入居
長隆香江野生動物世界(サファリーパーク・市の中心から30分程)

孫とパンダ(元気でよく動いていた)見物。孫より母親が楽しんでた。

帰りのバス・地下鉄は、混んでいたが幼児・老人が乗ると、若い人がすぐ座席を代わってくれた。

【パス(Suicaと同じ)の利用】

バンコクと広州では、利用方法は同じ(出口のバーが早く閉まる)であるが、バーが閉まって出られないとき、バンコクでは係員にカードを示せば出場処理を無料でしてくれた。一方広州では、再度料金を支払わなければならなかった。

主な出来事

- ◎ 2月13日、「大阪維新の会」は次期衆議院選に向けて策定する公約「維新八策」に、参院の廃止や首相公選、国会の改憲発議要件を衆参各院の総議員の「2分の1以上」への緩和などを盛り込んだ
- ◎ 2月14日、橋下知事が全職員に対して業務命令で、「労使関係に関する職員のアンケート調査」とした思想調査をしていることが判明した。大阪弁護士会長は中止を求める声明を発表し、大阪府労委は「アンケート調査の続行を差し控えるよう」勧告した
- ◎ 2月20日、沖縄県知事は、基地建設に向けたアセスメントに対し、「辺野古移設案」は「生活環境及び自然環境の保全を図ることは不可能」とした、意見書を国に提出した
- ◎ 3月26日、仙台地方裁判所は、自衛隊情報保全隊による集会参加者などに対する監視活動は「人権侵害」と認定する判決を出す
- ◎ 3月26日、大阪市交通局は、大阪交通労組が昨年の大阪市長選で「友人・知人紹介カード」の配布・回収リストを作成したとされた問題で、リストは囑託職員による捏造と発表した
- ◎ 4月13日、北朝鮮は「人工衛星」の打ち上げと称して「ロケット」の発射を強行した。打ち上げ1、2分後に空中爆発し、黄海上に落下した
- ◎ 4月13日、野田内閣は関係閣僚会議を開き、関西電力の大飯原発3、4号機について「安全性」「必要性」を認めて再稼働容認を明確にした
- ◎ 4月16日、石原都知事は尖閣諸島の一部を都の予算で買い取ると表明した
- ◎ 4月22日、政府と双葉地方の町村長との意見交換会で、枝野経産相は20年後までの空間放射線量の予想図を提示した。10年後でも「帰宅困難地域」となる、50^{ミリシーベルト}を超える地域が双葉町などに残る
- ◎ 4月27日、「衆参対等統一院制国会実現議員連盟」（自民・民主・公明・みんななどの議員）は、2017年から国会を定数500人の一院制とする内容の憲法改正原案を、横道衆議院議長に提出した。受理されれば初の改憲原案となる
- ◎ 4月27日、自民党は二度目となる「日本国憲法改正草案」を発表。みんなの党は「憲法改正に関する『基本的考え方』」を発表。また、4月25日には、立ち上がれ日本が「自主憲法大綱案」を発表している
- ◎ 4月29日、関越道・藤岡JCT付近で、大型バスが道路脇の遮音壁に激突して大破し7人が死亡、

39人が重軽傷を負う事後が発生した

- ◎ 5月5日、日本の原子力発電の全ての発電が停止した

編集雑談

今号の編集会議では、橋下大阪市長について色々な見方が出され会話が沸騰した。

■ 二重行政は無駄だと大阪都構想をぶち上げるなど、大胆で新鮮な改革案を次々に発表し、市職員労組の隙をついて「敵」に仕立てあげ、次々と攻撃して市民と対峙させる。マスコミは良否の区別なく市長の弁を垂れ流す。市民はこれらカリスマ的言動に期待を寄せたのでは。

■ 自分は正規労働でも子供世代の多くは無職や非正規労働。年金支給年齢の引上げや減額、消費税増税など明るい話題は無く、閉塞感が充満。このような市民生活が背景にあると思う。

■ 民主党や自民党に全く期待ができない。しかも、野党がなにを言っているのか新聞を見ても書いてない。これでは閉塞感は益々高まるというもの。テレビを見ている人ほど、橋下市長は何かやってくれそうだと、となるのでは？

■ 「決定できる民主主義」と言っているが、民主主義や地方自治は、意見の合意・意思決定に時間がかかるのは当たり前。それを無駄だと切り捨てたのでは上位下達になってしまう。

■ 市の全職員を対象に「回答しないと処分する」と業務命令で「思想調査・アンケート」を行なった。府労働委員会は「アンケート調査の続行を差し控えるように」と勧告を出し、大阪弁護士会長が「アンケート」の中止を求める声明を発表するなど、常道を逸脱した行動であることは明らかなのに、大手マスコミは橋下市長を全く批判しないんだよね。

■ しかし、アンケートの実施が自分に都合が悪くすれば、責任者は野村弁護士だといって、尻尾切りするのでは？

■ 閉塞感が深まる中、東京の石原、名古屋の河村、大阪の橋下と右翼的潮流が台頭し、憲法敵視の発言が相次いでいる。歴史の教訓として、国外に敵を作り国民の目線をそちらに向けて改憲に進むことが考えられる。九条の会は気をつける必要があると思う。

■ 最後に、ヒトラーは「大衆は小さな嘘より大きな嘘の犠牲になりやすい」と言い、そのヒトラーは国民の支持を受け、選挙で選ばれて独裁者になったことを忘れてはいけないのでは？

などなど、取り留めのない話がつづいた。皆さんはどのように考えますか。

この会の活動費の大部分は、「会報」の発行・送料に使われています。金額の大小を問わず協賛金にご協力をお願いします。 協賛金振込口座 口座名義 西岡幸雄（ニシオカユキオ）両行共通

①千葉興業銀行 佐原（さわら）支店・（店番号820）口座番号 普通預金 1016510

②ゆうちょ銀行 [店名] 0五八（読みゼロハチ）・（店番号058）口座番号 普通預金 0543623